

2019年度第1回理事会議事録

開催日：2019年5月22日（水）13:00～14:30

場 所：東京理科大学 PORTA 神楽坂 6階第1会議室

出席者：(50音順、敬称略)

理事)石塚真由美、大河内 博、太田壮一、大塚宜寿、門上希和夫、坂田昌弘、四ノ宮美保、柴田康行、鈴木規之、清家伸康、高菅卓三、高田秀重、田辺信介、中島大介、中野 武、橋本俊次、藤峰慶徳、尹 順子、吉田寧子

監事)西島 功、原田修一

1. (議長選出)

定款 39 条「理事会の議長は会長がこれにあたる」に基づき会長柴田康行氏が議長を務める。司会は業務執行理事を務める。

2. (定足数について)

定款 40 条により全理事数 (22 名) の 2 分の 1 以上 (10 名) とあり、本日の出席理事は 19 名であり定足数を満たしており、また監事も出席しており理事会は成立する。

3. (議事録について)

議事録は事務局が記録、作成し第 44 条により議長及び出席した代表理事並びに監事の署名、押印をし、本学会 HP へ掲載する。

(会長挨拶)

学会も英文誌の創刊などを含め少しずつ前に進みつつあるかと感じている。

環境化学全体としてもまだまだやらなければならないことがたくさんあるのだが、世の中の的には大きな話が無くなっており、そのような中でどのように学会の活動と結びつけていけるのが課題だと思う。分析と毒性の問題を結びつけていく必要も感じ、今後他学会との連携の場などをくっていく必要があると感じている。

(本日の議案審議)

第 1 号議案 「英文誌の創刊承認の件」

英文誌創刊検討委員会の高田先生より英文誌創刊について説明があった。

3 回の Web による委員会と JST のセミナーへの参加、JST のコンサルへの参加について JST と面談などの結果、Environmental Monitoring and Contaminant Research (EMCR) の創刊について理事会で承認を求めることになった経緯が説明された。

創刊目的については、討論会で発表されるような内容の論文を国際的に発信していくため。特にモニタリングデータの論文が海外の環境関係のジャーナルで掲載されにくくなっているのをそれらをひとつのターゲットにする。また、それをもとにしたサイエンスを目指すとの説明があった。

目標については、国際誌として認知され、ジャーナル IF の取得を目指す。学会の国際的プレゼンスをあげ、国内外での会員の拡大を目標とすると説明があった。

EMCR の特徴は、モニタリングデータを重視、電子ジャーナル、オープンアクセス、速報性、データベースのマップ化と説明された。

懸念事項と検討結果について資料にそって説明がされ、質疑応答に入った。

(質疑応答、意見等)

・投稿者の資格は検討しているか？－制限は考えていないが、ファーストスクリーニングで内容は検討する予定。

・ハゲタカジャーナルに間違われぬように注意する必要がある

・著作権の扱いについては？－これから JST のアドバイスのもと検討していく。

・5年後の IF は重要なので、かなり努力して工夫して取得する必要がある。

・先生方には投稿と引用のご協力をお願いしたい。

・モニタリングデータを重視すると引用されにくいというがあるので、そういう点でも何か良い方法があればデータベースにこだわらず、新しいことに取り組む。

・スケジュールはどうなっていますか？－来年の4月から論文募集を目標

・データベースはいつからですか？－創刊後に検討作成にかかる

・和文誌との関係について英文誌は「環境化学」とは独立して運営していく。

・将来的には英文誌が中心になるのかもしれない。

・英文誌の方で広告は考えていますか？－考えています。ジャーナルホームページへの広告掲載で運営費用を補填できればと思っています。

・会員が英文誌に出すときのサポートが必要なのではないかと？－経験のあるシニアの会員がマンツーマンのサポートする体制作りも必要かもしれない。

・日本語の機関誌については分析レター、技術レター、おもしろい分析法などをホームページに会員向けにだしたらどうか。

・Contaminant はどこまで含まれているのか？－幅広く考えている。毒性的なものも。

・JST のコンサルに落ちた場合はどうしますか？－独自にやっていくことを予定しています。

・費用面では「環境化学」の電子化で削減できた印刷発送費等 150 万円程度と学会からの持ちだしで 5 年間は運用していく。

・5年後に APC を導入して採算がとれないようなら廃刊すべきだ。

・実際に APC だけで採算がとれることはないと思うが、他の収入源を検討することはできないか。

・和文誌に関しても機関誌として学会からの支出で発行しているが、「環境化学」への投稿は会員資格が必要という違いはある。

・やってみる価値はある。継続については 5 年後に判断！

・英文誌を創刊することについては会員サービスの一環でもあると考えてよいと思う。一流の英文誌に出せない会員の受け皿になることができればよいのではないかと。

・アジア戦略のツールとして使っていければよいと思う。

質疑応答の後、細かな点については今後の検討が必要とみとめられたものの、創刊については挙手での採択が求められ、賛成多数で (1 名反対) 承認された。

第 2 号議案 「2018 年度事業報告および決算承認の件」

清家業務執行理事より 2018 年度の事業報告と決算について、黒字の決算であるとの説明があつ

た。黒字決算については、討論会収益によるところが大きい。
特に質問や異議はなく、挙手により全員一致で承認された。

第3号議案 「2019年事業計画および予算案承認の件」

清家業務執行理事より2019年事業計画および予算案について説明があった。

例年と異なるのは、

- ・ブルーボックス「地球をめぐる不都合な物質」を30万円分買い取り、高校生の副賞として配布すること。
- ・DIOXIN2019の共催金として200万円を計上していること、ただし、DIOXIN2019の共催金については返金される見込みであること。
- ・市県民税について学会として滞納があり、5年分の市県民税と滞納金について納付を予定している。
- ・英文誌創刊費用に300万円が計上されていること。

以上の結果、赤字予算となっている。説明の後、以下のような意見があった。

(質疑応答、意見等)

- ・退会賛助会員については真剣に受け止め、しっかりフォローアップすることで、現在の賛助会員を継続して頂くために重要だ。
- ・市県民税の滞納については、コンサルティングを依頼している会計事務所にも責任があり、会計事務所の変更や中止を検討した方がよいのではないか？—この件については業務執行理事が対応し報告する。

質疑応答の後、予算案について承認が求められ、挙手により全員一致で承認された。

議長により2019年度第2回理事会の議案審議が終了したことが宣言され、閉会した。